

先進地を視察しました

● エスカード牛久ビル及び牛久シャトーの利活用の推進に関する調査特別委員会 青森県八戸市（1月14日）

「八戸ポータルミュージアム はっち」「八戸ブックセンター」

特別委員会の調査内容

牛久シャトーとエスカード牛久ビルは、牛久市のシンボルであり、ゲートウェイとしての役割を果たしている。特別委員会では、牛久駅から牛久シャトーのエリアをあらゆる人々に愛され、市民が誇りを語り合い、新しい富を生み出す場にするために必要な方策を提示することを目標に、広い視野からの検討が必要と考え、調査研究を行っている。



八戸の両施設はいずれも「文化を育み、人をつなぐ場」として位置づけられている。「はっち」は市民活動や文化芸術の交流拠点として、「ブックセンター」は読書文化と地域資源の発信拠点として、それぞれ独自の機能を持ちながらも共通して市民参加を重視している。

牛久シャトーやエスカードビルの利活用を調査研究する上で大変参考になるものであった。

● 議会運営委員会 三重県いなべ市、愛知県半田市（1月20日・21日）

いなべ市「委員会等での議員相互間の自由討議の先進事例」
半田市「議員提案による議案や条例の先進事例」

市民の意見や要望を政策に反映することは議会の重要な役割である。いなべ市では、議案に対する市民の意見を聴取し、集約した意見を委員会などで論点整理を行い、取り扱いについて協議する。このプロセスが議員間での自由で活発な討議を促し、議案の多面的な検討につながっている。議会側からの提案や政策立案など、さらなる積極的な議会運営のために、こうした先進的な取り組みは大変参考になるものであった。



● 広報常任委員会 滋賀県大津市、甲賀市（1月27日・28日）

「広報広聴ビジョンについて」

委員会の課題

市民の意見を市政に反映させることが議会の役割であり、広報活動は議会への認知、興味を高めるきっかけとなる。一方的な情報の発信となってしまっている議会だよりを、双方向のコミュニケーションツールにすることで、議会への信頼や関心を高めたい。

両市とも広報と広聴活動を連携させるプランを策定している。広報（議会だより）においては市民参加型コンテンツなどの広聴へとつながる導線を意識的に設け、広聴においては活動により得た市民の声を議会内で集約・共有し、その内容や活動状況について議会だよりに掲載することで、議会全体の透明性を高めている。本市議会においても広報機能と広聴機能の連携を進めていきたい。



編集後記

昨年からは新体制で編集員が変わった「市議会だより」いかがでしたか？
スピードと効率アップが進めています。毎回見やすく読みやすい編集を心がけています。

4月からの入学生、新社会人となった皆さん、新たな生活はいかがですか？周りもニューフェースいっぱいです。皆様の温かいフォローをお願いいたします。

アメリカ大リーグ野球へ移籍となった岡本和真選手や村上宗隆選手も守備に打撃に大活躍です。

日本人の活躍と世界平和・LOVE & PEACE を祈っています。
(大森)

発行・編集 広報常任委員会

委員長 水梨 伸晃

副委員長 伊藤 知子

委員 石原 幸雄

大森 和夫

塚原 正彦

出澤 大

加藤 政之

〒300-1129

牛久市中央3丁目15番地1

Tel.029-873-2111

(牛久市議会事務局)